

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：34205

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24500768

研究課題名(和文)「1940年幻の札幌冬季オリンピック」をめぐるスキー振興

研究課題名(英文) Performance of Enhancement in Skiing for the Visionary Sapporo Olympics in 1940

研究代表者

新井 博 (Arai, Hiroshi)

びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・教授

研究者番号：10222720

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)： 我国は1940年に皇紀2700年を祝うために、オリンピックを開催することを決定し、スポーツ界は大会を成功させるために競技力の向上に努めた。全日本スキー連盟は、1928年に比べ1932年の冬季オリンピック・レイクプラシッド大会において、競技力が向上したことを確認し、改めてメダルを獲得するための「オリンピック優勝計画」を立て、国際的にスキー界のトップグループに入ることを目指した。一方で、各県の地方スキー連盟では、各県下で優れたスキー選手を選び出すための予選会の開催を実施した。

研究成果の概要(英文)： The opening of the Sapporo Olympics Games was also a celebration of the 2700 memorial year commencement of the Japanese Empire. Sports initiatives in Japan focused on improving the performance and standard of sports throughout the country. When the Japan Ski Association recognized that the performance of Olympic Games competitors progressed more in 1932 than in 1928, the association planned to have more victories in the Olympic Games and carried out plans to become part of the elite group of skiers in the event. Furthermore, local ski associations from many prefectures opened preliminary contests to select the best skiing competitors from within their prefecture.

研究分野：体育史

キーワード： 幻 札幌オリンピック 全日本スキー連盟 スキー競技会 競技力向上 選手強化 地方スキー組織
スキー政策

1. 研究開始当初の背景

オリンピック開催を成功させるスポーツ全体の振興策に関する歴史的な研究は、ドイツ・フランス・アメリカなどの夏季・冬季オリンピック開催を経験した国々にとって、重要なスポーツ研究となっている。理由は、各国々がオリンピック開催の成功は政治・経済・文化の全てに大きな効果をもたらすことを熟知しており、将来に生かそうと考えているからに他ならない。ドイツではケルン体育大学に、フランスではスポーツ研究所に、アメリカで UCLA を初めとする多くの大学機関に研究が集積されている。

対して、日本におけるオリンピック開催成功のためのスポーツ振興策に関する歴史的な研究は、極めて不十分である。政府レベルでの研究は行われて来ていない。また、一般にも「幻の冬季オリンピック」についてのスポーツ振興策の研究は、行われていない。ただ「幻の夏季東京オリンピック」の研究(中村、田原)はあるが、IOC 総会における日本での開催決定の経緯について、IOC 委員の意見を中心にまとめたもので振興策については触れていない。また入江、坂上、高津、加賀らによる戦前のスポーツ振興策に関する研究があるが、彼らは振興策をファシズムへの移行手段と捉え、政府や軍部のイデオロギー分析に主眼が置かれ、具体的な内容には触れていない。

日本では 1964 年の東京、1972 年の札幌でのオリンピック開催を成功させ、開催の重要性が十分に認識されてきており、今日再度東京オリンピック招致の運動が行われている。また、日本は「スポーツ立国」(「スポーツ立国 21」)を目指している。これらの状況下において、オリンピック開催を成功させるスポーツ振興策に関する歴史的な研究は重要さを増している。

2. 研究の目的

本研究は、4 カ年計画とする。1936 年の IOC

総会で、日本は 1940 年のオリンピック夏季大会を東京で、冬季大会を札幌で開催するオリンピックの招致に成功した。だが、1937 年に日中戦争が勃発したことにより、1938 年に日本は開催の返上を余儀なくされ、大会は「幻の札幌冬季(東京夏季)オリンピック大会」となった経緯があった。

本研究では、初めに 1936 年日本が札幌冬季オリンピック招致に成功するまでの国内のスキー振興策を解明する(1 年目)。次に、招致に成功してから返上するまでのスキー振興策を解明する(2 年目)。さらに、返上した後のスキー振興策を解明する(3 年目)。最後に、本研究の成果を国際学会で発表し、国際誌に論文を投稿する(4 年目)。

3. 研究の方法

1928～1936 年(1 年目)

文部省の振興策と長野・福井県の学校を中心とした振興の実態を調査する。

日本スキー連盟の振興策と長野県・福井県スキー連盟の振興の実態について調査する。

1936～1938 年(2 年目)

文部省の振興策と長野・福井県の学校を中心とした振興の実態を調査する。

日本スキー連盟の振興策と長野県・福井県スキー連盟の振興の実態について調査する。

1938～1940 年(3 年目)

文部省の振興策と長野・福井県の学校を中心とした振興の実態を調査する。

日本スキー連盟の振興策と長野県・福井県スキー連盟の振興の実態について調査する。

(4 年目)

論文作成、国際学会で発表し、国際誌に投稿する。

4. 研究成果

日本政府は大正末より国民のスポーツへの関心の高まりと同時に、体育デーや明治神宮大会の実施に代表されるようなスポーツに関する政策をとり始めた。昭和 3 年以降、

文部省は体育運動審議会に全国の体育主事を集め、全国的に体育・スポーツに関する国民的な促進を始めた。

日本スキー界は、世界のスキー界において一等国にならんとする目標を立てた。昭和4年全日本スキー連盟は競技力向上のために、秩父宮等の後ろ盾を得てノルウェーから第一級のスキー指導者であったヘルセット大尉¹⁾を招聘²⁾した。そして、スキー連盟は当時世界トップレベルにあったノルウェースキー技術を日本に普及するために、全国の有名な長野・群馬・新潟・青森・北海道のスキー場を回り、講演や指導を行いながら世界レベルのスキー技術の紹介に努めた³⁾。

昭和5年にオーストリアからシュナイダーが来日すると、スキー界では世界トップのアルペン技術を積極的に吸収した⁴⁾。

文部省では体育運動主事会議の意向を基に昭和6年に野沢温泉スキー場において、スキーの全国的な普及のために第1回全国スキー指導者講習会を開催した。そこでは、全日本スキー連盟の協力の下で、ヘルセットやシュナイダーにより紹介された世界のトップ技術が全国から参加した指導者に伝えられた⁵⁾。

昭和7年から日本では皇紀2700年祝賀のために、日本でオリンピックを開催することを決定した。この年全日本スキー連盟では、改めて「オリンピック優勝計画」を立案し、当面ベルリン・オリンピックでの優勝をめざした。昭和7年、昭和8年、昭和9年、昭和10年と連盟の本部では、オリンピックでの活躍のためにヨーロッパへの海外遠征や日本代表選手の合宿練習を北海道などで重ねた。また各府県の地方組織では、優れた選手の発掘のために、毎年全日本スキー選手権大会の各府県での地方予選大会や、県のスキー大会開催を充実させることに取り組んだ⁶⁾。

日本オリンピック委員会(JOC)では日本にオリンピック招致するために開催国と

して総会で立候補し、強力なライバル国イタリアから必死の交渉により優先権を譲渡され、日本開催を勝ち得た。1940年の夏季大会を東京で冬季大会を札幌で開催することに決定し、開催準備を進めた。ところが、国際スキー連盟(FIS)はオリンピック委員会(IOC)でプロ選手の出場を禁止していた。国際スキー連盟の総会において、プロの指導者として生計を立てていた選手の多い北欧を初めとする国々の意向が多数を占め、札幌オリンピックへの不参加を決定した。開催予定国日本はスキー選手の参加を勝ち取る巻き返しを図りアメリカやドイツに働きかけたが、国内情勢は昭和37年日中戦争が勃発し、日本はオリンピックの開催をIOCに返上したのである⁷⁾。

返上後もスキー連盟では全日本スキー選手権を開催し、地方では地方予選会を開催し優れた選手の発掘に努力していた。

引用文献

1) 新井博(2014)「ヘルセットの生涯について」

日本スキー学会第23回大会発表 於妙高高原

2) 新井 博(2013)「スキー振興のためにヘルツェットの招聘」

第63回日本体育学会にて研究発表 於立命館大学

3) 新井 博ノルデックスキーの紹介者オーフ・ヘルセット、『スキー研究』査読有 第11巻, 2015, 1:19-27.

4) Arai Hiroshi "HANNES SCHNEIDER'S ARRIVAL IN JAPAN", Physical Education and Sport around the Globe: Past, Present and Future, Rio de Janeiro, ISHPES, 査読有, 2013, pp.335-342.

5) 新井 博, 道和書院, 「文部省スキー講習会(昭和6年)創設の意義」2015年 pp.152-180.

6) 新井 博「1940年幻の札幌冬季オリンピ

ックに向けてのスキー振興 - 1928-35 年全日本スキー連盟の活動を中心に - 』『スキー研究』査読有 日本スキー学会, 第 10 巻, 2013, 1:35-46

7)新井博「1940 年幻の札幌冬季オリンピック招致運動について」 びわこ成蹊スポーツ大学 『研究紀要』査読有 第 11 巻 2013, 55-62 .

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

Arai Hiroshi " HANNES SCHNEIDER ' S ARRIVAL IN JAPAN " , Physical Education and Sport around the Globe: Past, Present and Future, Rio de Janeiro, ISHPES, 査読有 , 2013 , pp.335-342.

新井 博「1940 年幻の札幌冬季オリンピックに向けてのスキー振興 - 1928-35 年全日本スキー連盟の活動を中心に - 」 『スキー研究』 査読有 日本スキー学会, 第 10 巻, 2013, 1:35-46

新井 博「1940 年幻の札幌冬季オリンピック招致運動について」 びわこ成蹊スポーツ大学 『研究紀要』 査読有 第 11 巻 2013, 55-62 .

新井 博, 道和書院, 「文部省スキー講習会(昭和6年)創設の意義」2015年 pp.152-180 .

新井 博ノルデックスキーの紹介者オラフ・ヘルセット, 『スキー研究』査読有 第 11 巻 , 2015 , 1:19-27.

[学会発表] (計 6 件)

新井 博「幻の札幌冬季オリンピック開催に向けてのスキー振興 昭和 3-11 年における中央と地方の振興 」第 3 回日本体育史学会 2013.5.11-12 . 明治大学(東京都)

新井 博「スキー振興のためにヘルツェッ

トの招聘」 第 63 回日本体育学会 2013.8.28. 立命館大学(京都市)

新井 博「幻の札幌オリンピック招致について」 第 1 回夏季セミナー(日本スキー学会) 2013.9.7 . 中央大学(東京都)

新井 博「ヘルセットの生涯について」日本スキー学会第 23 回大会 2014.3.16. 妙高高原(新潟県)

新井 博「1940 年幻の札幌オリンピック冬季大会開催に向けてのスキー競技力向上について」 2015 東北アジア体育・スポーツ史学会 2015.8.12. 釜山(韓国)

新井 博「昭和初期のアルペン競技会の始まりについて - シュナイダー杯・蔵王-高湯温泉滑降レース」 日本スキー学会第 26 回大会 2016.3.15. 蔵王(山形県)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

新井 博 (ARAI , Hiroshi)

びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・教授

研究者番号 : 10222720